

取り急ぎ **最低限** やっておきたい 職場の防災対策

まるやま みか 中小企業診断士・防災士。ラジオフューズ『火曜 おはようフューズ!』『ブラインド・ナビ』のパーソナリティとしてゲストへのインタビューは150組を超える。ネットワーキング、販路拡大を得意とする。

クレッセントビジネスデザイン
中小企業診断士 防災士

丸山 美佳

「物の落下」対策



キャビネットの上には物を置かないようにしましょう。

キャビネット・ラックの収納物には、ベルトやネットで飛び出し防止対策をします。扉付きであれば「必ず扉を閉める」等のルールを徹底しましょう。

特にデスクの後ろにあるキャビネットには、注意が必要です。

激甚化する自然災害

近年、気候変動の影響などにより、災害の頻発化・激甚化が進んでいます。

その一方で、人手不足の中小企業では、なかなか防災対策に手が回らないのが現状です。

ひとくちに防災対策といっても、その範囲は非常に幅広く、どこから着手すべきかわからない担当者も少なくないでしょう。

そこで、職場で「これだけはやっておきたい」という最低限の防災対策を紹介します。

「オフィス家具の転倒」対策

小 ← 器具の効果 → 大

ストッパー式	ポール式	L型金具 (スライド式)	L型金具 (上向き取付け)	L型金具 (下向き取付け)
マット式		ベルト式	プレート式	
		チェーン式		

家具や壁面、天井に十分な強度が必要

壁面に十分な強度があり、穴を開けられるのであれば、金具等で固定しましょう。

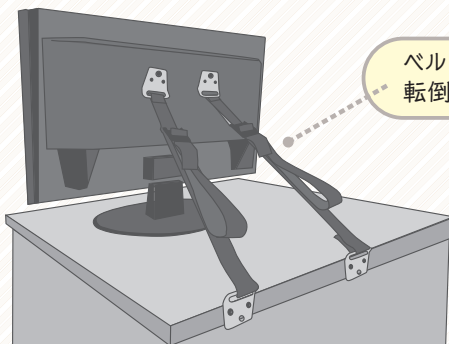
キャビネット同士の連結やキャビネットの下に差し込む粘着マット・ストッパー、天井と天板の間に挟むポール式の防災用品を用いる方法もあります。防災用品は組み合わせて使うことでさらに効果が高まります。

ただし、器具によっては、天井や壁面、オフィス家具に十分な強度がなければ使用できない器具もあります。

また、ケガや避難の妨げにならないよう、置き場所も工夫しましょう。

「パソコン等」の対策

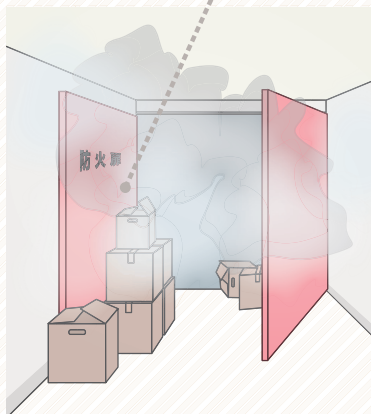
デスクトップパソコンやディスプレイは、機器の下に敷くジェルマット等で転倒防止対策をします。テレビや大画面ディスプレイは、耐震用のベルトやストッパーで固定します。また、パソコンやサーバについては、避難時にオフィスが無になることを想定して、必ずセキュリティワイヤー等で盗難防止の対策をします。



ベルトで固定して
転倒を防ぐ

「避難経路確保」の対策

防火扉の前に
物を置かない



避難経路の確保として、「経路上にある扉や階段、通路には物を置かないこと」をルール付けます。

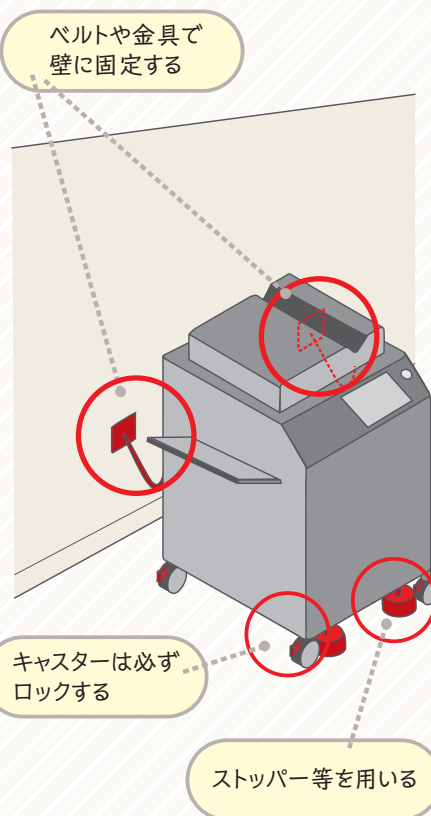
また、防火扉の周囲や防火シャッターの下にも障害となるものを置かないようにします。

避難時に、引出しやキャビネットの扉等で経路が塞がれないかも、シミュレーションしておきましょう。

「重いオフィス機器等の移動」対策

キャスター付きのオフィス機器は、必ずキャスターをロックし、さらにストッパー等を用いて動かないように固定しておきます。

高層階では特に揺れが激しくなる傾向にあり、オフィス機器が動いてしまいやすいので、ベルトや金具で壁や床に固定するとより安全です。



ベルトや金具で
壁に固定する

キャスターは必ず
ロックする

ストッパー等を用いる

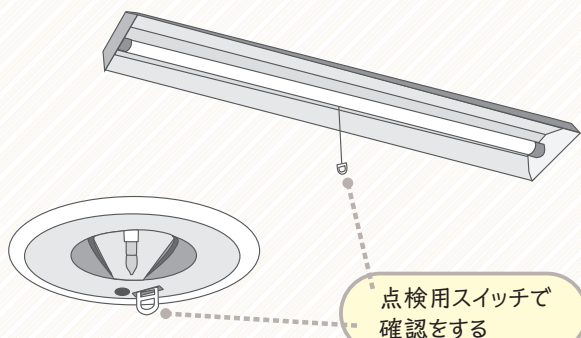
「非常用設備」の対策

災害ベルや火災報知器は、非常時に作動するかどうか定期的に点検します。

非常灯（非常用照明）は、停電時に真っ暗にならないように、球切れや電池切れを定期的に点検します。

これらは、ひも等の点検用スイッチで確認できます。

また、省エネ対策で蛍光灯等を間引きしているオフィスでは、停電時にバッテリー等で非常灯として点灯する「併用型」の非常灯を間引かないよう注意しましょう。



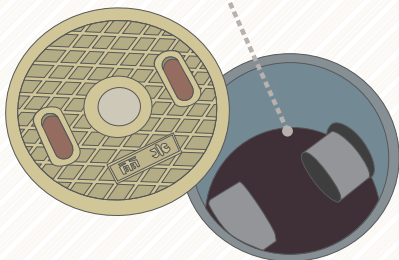
点検用スイッチで
確認をする

「水害時」の事前対策

雨水の排水溝や道路の雨水枡は、ゴミや異物を取り除いておきます。雨水枡が詰まると冠水のリスクが高まります。

また、道路に設置しているカーステップが雨水枡へ流入すること等を防ぐため、豪雨の予報が出た時には早めに撤去します。

枡の底に溜まった泥やゴミなどをスコップなどで取り除く

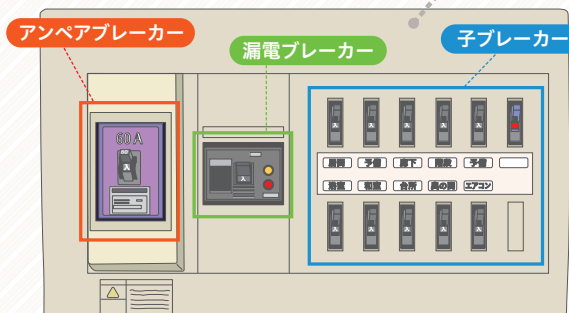


「通電火災」対策

通電火災は、停電の復旧時に電気ストーブなどに通電して発火する場合だけではなく、地震で電気配線や電気機器等が破損した状態で通電され、火花が発生し、発火する場合があります。

避難する際に分電盤のアンペアブレーカーを落とすことで防止できます。ブレーカーの位置は誰でもわかるようにしておきます。

分電盤ブレーカーの位置を把握しておく



情報収集の事前準備

防災は、目に見えるハード対策だけでなく、情報収集といったソフト対策も重要です。

あらかじめ地域の防災情報はどこから入手できるのか確認しておきましょう。

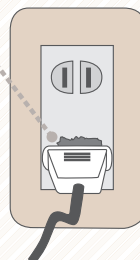
特に水害時の避難所開設等は、地域に特化した情報の入手が必要になります。

自治体により一斉メール、SNSでの情報発信、ホームページへの情報掲載等がありますが、一斉メールについては事前登録が必要な場合もあります。

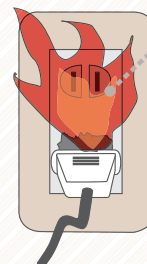
水害については、洪水ハザードマップ等を利用して、河川氾濫時に浸水が想定されている区域かどうかを確認し、あらかじめ避難ルートを検討しておきましょう。●

「プラグ・配線による火災」対策

すき間のホコリに湿気が混ざる



火花が出て火災発生



コンセントに差しっぱなしのプラグが火災を引き起こすこともあるので、注意しましょう。

コンセントとプラグのすき間のホコリが湿気を帯びることが原因で発火する火災をトラッキング火災といいます。

プラグ周りにホコリをためない、使わないコンセントは抜く、古いタップを使わない等、日頃から徹底します。

すべてのコンセントを見える状態にしておくことも1つの方法です。

一方、タコ足配線からの発火は、コンセント、電源タップ、電源コード等の容量超過が原因であることが多いです。

一般的なコンセントの定格容量は15 A (1500 W) です。使用する機器の消費電力の合計が定格容量以内であるか確認しましょう。